

まちの名に歴史あり

かいと かみがいと 垣内とは、
垣内・上垣内 古代からあ
 とおのかいと る言葉で、農
・外殿垣内 村において
 垣をめぐら
 し、他と区別した土地を指します。主に畑
 地や林などを囲い込んで自分の土地であ
 ることを示しました。

旧星田集落の東側、妙見川に沿って、上垣内・垣内・外殿垣内と名付けられています。垣内が最初にできて、上垣内、外殿垣内の順にできました。外殿には、徳川家康が大坂城を攻める際に星田村に宿泊した御殿があり、その外側に作られた垣内であることから外殿垣内になったという言い伝えがあります。



神祖宮趾之碑

また、この付近には徳川家康が宿営したことを示す「神祖宮趾之碑」があります。

問い合わせ 社会教育課文化財係 (TEL 893・8111)



おおたに 星田には大谷という地名が二つあります。
大谷 一つは菖蒲ヶ瀧から東南方向の山一帯を大谷と言
 います。この付近は谷が続いており、谷沿いに進むと最後には磐船神
 社の大岩の下に出ます。妙見川の源流で、大きな谷であることから
 大谷と名付けられました。
 もう一つの大谷は、現在の星田駅南側の交野市と寝屋川市との境
 にある集落です。この集落は、江戸時代から東高野街道を挟んで東
 側に星田村、西側が寝屋村に分かれており、江戸時代に村ができる
 前から存在した古い集落であることを示しています。

こまつ 星田の南側の山間部を妙見川沿いにさ
小松 かのぼり、菖蒲ヶ瀧からさらに南へ600
 ほど谷間を行くと、四條畷市の田原と
 逢坂への分かれ道に出ます。この付近の高地には平安時代から江戸時代前半まで小松寺という大きな
 寺院があり、それがこの地名の由来です。

平安時代に交野に小松寺が存在していたことは、京都の広隆寺にある資料で確認できます。広隆寺の上宮王院の本尊である聖徳太子像の体内に納められているお経の奥書(お経の作成由来)に小松寺の名前が記されています。

《奥書の内容》
 かのえね かのとひつじ いぬどき
 元永三年(1120年) 庚子四月一日 辛未の日戌時(午
 後8時)に書き始め、同三日 癸酉の日の申時(午後4
 時)に広隆寺の西門堂の巽間で書き写し終えた。
 執筆したのは河内国交野郡小松寺の住僧兼仁であ
 る。願主は僧定海。



木造十一面観音立像

現在、星田寺にある市指定文化財の木造十一面観音立像と、光明寺にある薬師如来立像は元々小松寺にあった仏像で、元禄16年(1703年)に小松寺が廃寺になった際に、星田寺と光明寺に移されたと伝えられています。実際にこの2体の仏像は平安時代までさかのぼる、市内でも非常に古いものです。また、星田妙見宮は正式名称を小松神社と言い、小松寺との関連を伺わせません。

なお、地名の由来となった小松寺は、現在星田9丁目にある法華宗(本門流)小松寺とは異なります。



小松寺跡からの展望(昭和50年)